

令和4年度連携排砂計画（案）及び
 連携排砂に伴う環境調査計画（案）に関する関係団体からの意見と対応について
 【令和4年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業関係団体	<p>① 海面漁業者への令和4年度の排砂計画の説明（5月11日）にあたり、測量の遅れやスケジュール上（5月18日の排砂関係連絡会議、5月24日の土砂管理協議会）致し方ないとしても、5月の測量を終えていない段階での説明（想定変動範囲（想定値）約7万m³～38万m³）ではコメントのしようがない。</p>	<p>① 令和4年度の出し平ダム目標排砂量に資する堆砂測量については、積雪等の影響により黒部峡谷鉄道の開通（5月8日に猫又まで開通）が遅れたことから、資機材等の運搬上、現地作業の開始も遅れたものである。そのため、海面漁業者への排砂計画説明では、過去の排砂実績から令和4年度の目標排砂量（想定変動範囲含む）を想定し、お示ししたところである。</p> <p>今後、冬期間の積雪状況等によるところであるが、同時期に開催する海面漁業者への排砂計画説明の際には、確定した目標排砂量（想定変動範囲含む）をお示しできるよう努めてまいりたい。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業 関係団体	<p>② 今年度の排砂実施にあたっては、より自然な形での排砂の実施と、漁業者側が主張している30万m³を超えない排砂であれば海域への負荷が小さいということへの配慮を願う。</p>	<p>② 令和4年度の連携排砂については、令和2年度から試験的に実施している宇奈月ダム先行操作を今年度も引き続き実施する等、より自然に近い形での土砂動態を目指すところである。また、ダム貯水池内の土砂については、環境への影響を極力軽減させるため、長時間留めることなく、年1回排砂できるよう努めているところである。</p> <p>今後もより自然に近い形での土砂動態が実現できるよう、専門的な知見より助言・指導いただき、また、関係機関や関係団体のご意見を踏まえ、検討してまいりたい。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業 関係団体	<p>③ 5月の測量実施後、目標排砂量の確定値について、HP上の掲載だけでなく、改めて説明に行ってほしい。</p> <p>また、漁業への影響を軽減するため、1回での排砂が30万m³を超えない方法の検討を行ってほしい。</p>	<p>③ 出し平ダム目標排砂量および想定変動範囲の確定値については、黒部河川事務所HPで公表するとともに、各漁協への周知方法等について事務局を通じて調整させていただきたい。</p> <p>また、ダム貯水池内の土砂については、環境への影響を極力軽減させるため、長時間留めることなく、年1回排砂できるよう努めているところである。</p> <p>今後もより自然に近い形での土砂動態が実現できるよう、専門的な知見より助言・指導いただき、また、関係機関や関係団体のご意見を踏まえ、検討してまいりたい。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業 関係団体	④ 連携排砂実施前と後での評価委員による陸と海上からの現場視察（特に藻場への影響）を実施するようお願いしたい。（漁業者とともに）	④ 排砂評価委員の方々には、これまでも黒部川を視察いただく機会を設けているところである。 排砂・通砂の実施は降雨量との関係で決まるため、スケジュールなど不確実であることからご意見どおりの視察の可否はお答えできないが、ご意見を踏まえ引き続き視察の機会を設けるよう努めてまいりたい。

【令和4年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業関係団体	<p>① 細砂の堆積による河床上昇は、一昨年河口1km付近までから昨年は上流11km付近まで急激に広がった。河口付近では、細砂の堆積による河口閉塞が鮭や鮎等の遡上を妨げ、また河口より上流11kmまでの河床上昇は、細砂が堆積することで河床の礫に水が接する表面積を少なくし、湧水箇所が埋没して魚類にとって住みづらい川に変えてしまっている。</p> <p>これらは、連携排砂・通砂が主要因であることは確かであり、堆積した土砂の平均粒径調査を200m毎に実施いただき、魚の残存率即ち魚への影響を調査頂き、その上でこの堆積した細砂の移動や除去の措置を大至急検討の上、実施いただきたい。</p>	<p>① 黒部川では、排砂等の実施を含む洪水により河道内で流下する土砂の堆積・侵食を繰り返しているものと考えている。</p> <p>また、黒部川では毎年河川測量を行っており、土砂の堆積により治水や河川環境上で問題がある場合は、樹木伐採や河道掘削等の必要な整備を行っている。</p> <p>治水上の目的で実施している樹木伐採や河道掘削、護岸等の整備にあたっては、『魚にやさしい川づくり検討委員会』等の場を通じて、引き続き漁業者や学識経験者の意見を聴きながら河川環境に配慮した整備に努めてまいりたい。</p> <p>なお、河川における河道状況調査として環境調査計画に基づく粒度分布調査や航空レーザー測量の他、河床材料調査等を実施しているところ。</p> <p>河川における魚類への影響調査について、学識経験者等の意見を踏まえつつ実施してまいりたい。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業 関係団体	<p>② 連携排砂・通砂は、細砂や浮遊泥により河川の濁りを引き起こし、魚類の生息と鮎の餌となる珪藻類に重大な影響を及ぼしている。</p> <p>排砂規模や実施時間の違いによる環境への影響度合いに加えて、別の観点からの分析、調査及び検証等も検討等いただき、あらたに実施してほしい。</p> <p>例えば、河川本来の働きは、水の流れによる土砂の浸食、運搬、堆積であり、この繰り返しのよって浮き石の多い瀬や、砂礫底の淵、入り江となって流れるゆるやかなワンドなどが作られる。このような水辺環境が、鮎にとってエサを採ったり、休んだり、隠れたり、繁殖するなどの生活をする大切な場所となっている。</p> <p>今の黒部川において、この『エサ場』『休憩場所』『隠れ場所』そして『産卵床』を特定し、排砂前後の変化を分析・調査及び検証することで、如何にしたら『魚にやさしい川づくり』に繋がるかを検討いただき、具体的な対策として実施いただきたい。</p>	<p>② 令和3年度は、やすらぎ水路の再生やアユの産卵に適した河床造成試験、河川内の湧水調査・湧水マップの作成等を行っている。</p> <p>令和4年度も引き続き河川環境に配慮した整備を実施していくこととしており、『魚にやさしい川づくり検討委員会』等の場を通じて、漁業者や学識経験者の意見を聴きながら河川環境に配慮した整備に努めてまいりたい。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業 関係団体	<p>③ 排砂前・中・後に評価委員会メンバー立会い で魚の生息調査を実施することで、現場の実態 を正確に把握いただき、その上で「今後、如何 なる排砂とその後の対応を行うか」、この議論 を深めるため、熟考された意見具申をお願いし たい。</p>	<p>③ 魚類調査においては、環境調査計画に基づき、 学識経験者等の意見をいただきながら実施して きているものである。また、排砂評価委員の方々 には、これまでも黒部川を視察いただく機会を 設けているところである。</p> <p>排砂・通砂の実施は降雨量との関係で決まる ため、スケジュールなど不確実であることから ご意見どおりの視察の可否はお答えできない が、ご意見を踏まえ引き続き視察の機会を設け るよう努めてまいりたい。</p>

【令和4年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
<p>農業 関係団体</p>	<p>近年農業は担い手農家等に農地が集約され、大規模経営となっております。</p> <p>そのため、担い手農家等は、水の必要な時期が以前と比べ長期間必要となっており、連携排砂による断水時期と農作業の関係に強く不安を抱いております。</p> <p>こうした農業情勢の変化を充分考慮され、連携排砂の実施時期及び期間を検討していただくとともに、実施情報提供の更なる周知に努めて頂きたい。</p> <p>また、農作業の影響を最小限にするため、連携排砂及び通砂による合口用水の取水停止時間が長期化しないよう再検討願います。</p>	<p>現在の排砂・通砂の実施時期や方法等は、これまでも関係機関や関係団体からご意見をいただき、排砂評価委員会および土砂管理協議会等で評価・議論され、築かれてきたものである。</p> <p>今後とも、関係団体と連携を密にしてご理解・ご協力を得ながら、連携排砂の実施時期が適切なものとなるよう努めてまいりたい。</p> <p>また、令和3年度から「連携排砂の体制・実施情報の情報提供の改善」として、Twitterで連携排砂の体制・実施状況を伝達する取組を行っている。これに加え、「連携排砂の予報」（可能性の高い・低い降雨日の情報）を2～3日前にホームページやTwitterで提供する取組も行っている。</p> <p>今後も連携排砂等を実施するにあたっては、地域の皆さまにご理解とご協力が得られるよう、分かりやすい広報、情報提供に努めてまいりたい。</p> <p>合口用水の取水停止時間については、関係各所と意見交換等を行い、短縮に向けた実現可能な改善策がないか引き続き検討してまいりたい。</p>